

指導者養成の新たな取組（2018年度第2弾）を高知県民体育館で開催！ ～教育改革に対応した指導者養成 鈴木みゆき理事長がコーディネート～

国立青少年教育振興機構では、全国各地の国立青少年教育施設において、様々な教育活動、体験活動等の「指導者養成」のための取組を行っています。特に、機構本部では、当機構が青少年教育のナショナルセンターであることから、国が進める教育改革に応じて、今後の指導者養成の新たなモデルとなる取組を実施しています。

特に、2018～2022年度にかけて順次進められる改訂学習指導要領の実施の動きに応じて、また、その一番手が幼児教育であることを踏まえ、幼稚園教諭や保育士等を対象としたシンポジウム形式の研修会を開いています。その中では、文部科学省や内閣府など、関係府省から講師をお招きし、改訂の背景や真意などの解説、実践事例の紹介をいただいています。

また、2018年度の研修会では、今回の学習指導要領改訂の重要なポイントである学校段階ごとの教育課程の接続（例えば、いわゆる「小1プロブレム」など生じさせないよう、子供たちが幼稚園等から小学校に進む際に円滑に教育活動を進めるための対応など）についてお伝えすることにしています。

このたび、平成30年7月30日（月）に、今年度第2弾として、高知県教育委員会との協働により、高知県民体育館を会場に開催しました。研修会のテーマを「育みたい資質・能力をつなぐ保幼小接続の在り方」として、幼児教育関係者だけでなく、小学校の教員の方々や教員養成課程の学生を含め308人の参加を得ることができました。

今回の講師は、国の府省から、文部科学省の湯川秀樹視学官、内閣府の横澤峰紀子教育保育専門官をお招きし、鈴木みゆき理事長のコーディネートにより講師等それぞれとの掛け合いによる研修会が行われました。また、シンポジウムの中で、子供たちに体験を提供するための場の紹介として、国立室戸青少年自然の家の瀬沼次長から自然の家で体験できるプログラムの紹介等がありました。



（上：シンポジウム講師の文部科学省湯川視学官、内閣府横澤専門官）



（左：国立室戸青少年自然の家での取り組みを紹介する瀬沼次長、コーディネーターの鈴木理事長）